

しのばず自然観察会より 2023-06 2023.06.01

2023年6月の活動 不忍池 定点観察



集合：2023年6月11日（日）
午前10時 不忍池 蓮池南西端
緑の小旗あり（野外ステージ西側、
湯島天神下交差点寄り）

今回は雨天中止

持物：筆記用具、双眼鏡、雨具、マスク
（敷物、昼食、飲み物、日傘）

解散は午後1時頃ポート池畔または藤棚
参加費不要 非会員の参加も歓迎

2023年 5月21日の不忍池観察記録

5月の定例観察会は21日（日）、快晴のもと10名の参加で行われました。東京の最高気温 26.3℃、途中から雲が出て外歩きには程よい気候でした。伸び始めたハスの間をカイツブリの若鳥が泳いだり潜ったりする姿が見られました。アオサギが空中を舞い、ギンヤンマが縄張りを飛び回り、カメは甲羅干し。1mに届くかというアオダイショウが、からだをくねらせながら上手に水面を滑っていきました。

春の雑草が種類を増し、名前がわからない外来植物にあちらこちらで出会いました。

この日は、前号の「しのばず自然観察会より」で紹介した絵本原画展の主人公である栗林菊夫さんが自転車で参加、観察会参加者に積んできた絵本「きんいろのおたまじゃくし」（こどものせかい5月号、至光社刊）と「鳥で遊ぶ絵問・」（どうぶつ社刊）をくださいました。余部がありますので、6月の観察会に持っていきます。

鳥：カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、ウミネコ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ドバト 計13種（坂部嗣雄）

昆虫：アオモンイトトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、アゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、（小川千恵子・小川潔）

爬虫類：アオダイショウ、ミシシッピーアカミミガメ、クサガメ

開花・結実植物：ノゲシ、ハルジオン、チチコグサモドキ、ヒメムカシヨモギ？ 雑種タンポポ、オオイヌノフグリ、コマツヨイグサ？、ユウゲショウ、ヘビイチゴ、カタバミ、ムラサキカタバミ、ヘラオオバコ、コメツブツメクサ、ドクダミ、ヤセウツ

ボ、ナガミヒナゲシ、ワルナスビ、マメグンバイナヅナ、アメリカフウロ、キキョウソウ、キツネノボタン、コヒルガオ、ギンギシの仲間、ソバ? キショウブ、スゲの仲間、ムギクサ、イヌムギ、チガヤ、他にイネ科2~3種類。園芸種では、タチアオイ、サツキ、アベリア、桃色花のキョウチクトウ (小川潔)



左から (実際の大きさ順) アオサギ、カイツブリの若鳥、アオモンイトトンボ



アオダイショウ



ヤセウツゴ



ムギクサ



ヘラオオバコ



しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方
1975年創立 電話03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

2022年以前の会費未納の方もお忘れなく! 退会の場合は早めに葉書で事務局へ

2023年5月21日の活動 小川千恵子

バスを降りて園地に向かうと、樹上にハシブトガラス。9:23
ボート池北側の水鳥はゼロ。ドバトが浮き橋のデッキの床に4、
手すりに7、草地に12。デッキ南にオレンジ色のナガミヒナゲ
シ（長実雛罌粟）、春紫苑、ドクダミ、オオイヌノフグリ、薄ピ
ンクの花（何とかフウロ？）、黄色い花のへビイチゴ（蛇莓）、
葉が細長くてみどりの粒状の花が茎頭に細長くついていて、その
真中や上の方に白い花が小さな棒状のものに支えられて、くっつ
いている。ヘラオオバコ（笹大葉子）。



アメリカフウロ

ハンノキは5mmくらいの実が上向きについている。

ハンノキの南、桜の木の北側の少し日陰になった所に背の低い
ドクダミが多数咲いている。とてもきれい。タンポポ。細長い葉
に長細い花がついているイネ科の植物。それに混ざり合うよう
にもう一種。背の低い細長い葉にせんこう花火のように花がつい
ている。スズメノカタビラ？



ドクダミ

9:37. 桜の木の南はヘラオオバコが多数咲いていて、風に揺
れてとてもきれい。白い小さな花は真中についたり、先っぽにつ
いたり。どうやら下から上へ咲いて行くらしい。

鳥モニュメントの北に黄色い花の蛇莓とカタバミ（傍喰）。続いて2本の桜、カンザ
ンの西に丸い葉が地べたを覆う。ドクダミの葉？柳の池側には綿毛のついたイネ科の
植物が多数。チカヤ（千茅）らしい。笹大葉子が多数揺れているのが本当にきれい。

まだ、ボートが一艘も出ていない。

石垣(?)の南の木は？その木の南に茎が長い薄紫色の花、葉は細長い。何？ピン
クのタチアオイの南に黄色い花。咲き終わってしおれているのは赤っぽい。(コ)マ
ツヨイグサ(待宵草)？

9:55. ひっくり返したボートの上に大きなカメ(クサガメ?)と巨大なアカミミ
ガメ。ボート池が終わって、ぐるりと周るところでヤセウツボ発見。マメ科の植物に
寄生するという。あとで、Kさんからシロツメクサが宿主と教えてもらう。

集合地から」

蓮池の岸寄りの所は、刈られたことなんてありませんよとても言いそうな位、池の
中央部と同じように蓮が大きく茂っている。まだ少し空いている所もある。

集合地そばの、以前スノーブレイクのあった所は、ピンクと赤のタチアオイと先月
の濃いピンクのタチアオイ。黄色の傍喰。ピンクの何とかフウロ、黄色いノゲシ(野
罌粟)。モンシロチョウが東の方へ飛んで行く。ネコジャラシ(エノコログサ:狗尾
草)、スズメノカタビラ。花が濃いピンクのムラサキカタバミ(紫傍喰)。

野外音楽堂の北側の地際にチチコグサモドキ（父子草擬）。マメゲンバイナズナ（豆軍配薺）。オニノゲシ（鬼野罌粟）。オオバコ（大葉子）。

アオサギが東から西へ飛ぶ。30cm位の背の高いスギナ（杉菜）。杉菜の四方に伸びている1本を折って、すぐにくっつけると、みごとにくっつくので、どこが折れているかを当てっこする遊びを子どもの頃にしていた、とSさん。私は初めて知った。

他の人達はもうずっと先へ行ってしまったと気づく。が、蓮池の水の中の鉢を囲むようにしたデッキで、シオカラトンボを見つける。続いて大きい黄緑っぽく、尾が黒と黄のシマシマ模様のオニヤンマらしいのが飛ぶ。蓮の葉柄に尾先をくっつけて、すぐ飛び立ち、見失う。そのすぐあと、尾が青色のイトトンボをSさんが見つけて、教えてくれるがなかなか見つけられない。蓮につかまり、水面に尾をつけている。あとでアオイトトンボとKさんに教わる。以前、Aさんにアジアイトトンボと教わっていたので調べてみると2つは良く似ている、そしてアオモンイトトンボも良く似ている。このイトトンボは何？2人で見た3種のトンボを皆に知らせたいのに、ずっと先に行ってしまうている。

風俗資料館あたりで、ワイルドペチュニア。ツマグロヒョウモン（雌）が飛ぶ（幼虫の食草はスミレとSさんに教わる）。弁天堂参道入口手前の、例のアカガシラサギを昨年見た所でようやく他の人達に追いつく。

ギンヤンマ1，アオサギ1。ヘラオオバコ、ピンクの（コ）ヒルガオ。

弁天堂参道を入れてすぐ右に背丈70cm位のピンクのハギ（萩）が咲き始めている。手前には濃いピンクのツツジ？サツキ？が咲きほこっている。春と秋が同居。

大きい藤棚の東側に何とかフウロ。南側に葉も花も巨大なワルナスビ。カラスノエンドウ。水の中のアシ（葦）と同じようなのが地べたにもはえている。これもアシ（=ヨシ：葎）と。

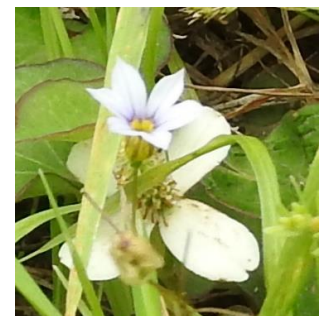
ボート管理所の前の道を南下。左に黄色いコマツヨイグサとコゴメツメクサ。蓮池にカイツブリ若鳥。ボート池側にイトトンボ。潔が写真に撮ったのを調べるとアオモンイトトンボ。Sさんと見たイトトンボとは同種？別種？右側に20cm位の高さの綿毛「チガヤ」（千茅）。

蓮池の蓮の上から水を泳ぐ90～100cm位の細い蛇。アオダイショウ。右、ボート池側の以前カメが産卵した桜の木の下に紫糸のキキョウソウ（桔梗草）。薄紫の星のような六弁の花ニワゼキショウ（庭石菖）。

ボート池南の裏返しボートの上、カメ3。カルガモ2が水浴び。（カルガモはちよ



ワルナスビ



ニワゼキショウ

っと大きくて胸が白いのがメスとSaさん)ここからボート池西側を見ると杭のところに前より太い蛇がス〜ッと北の方へ泳いで行く。

皆でヤセウツボを見る。

鐘が鳴り出す。1回鳴って2回目が弱い。だいぶ間があつて弱々しい音が7回。全部で9回???

お昼を食べている時、白鳥型ボートの頭にウミネコ1羽。

・今回も野草の名を多数教えてもらった。3月4月に見られたものは見られなくなり、新たな植物が咲き出している。6月になると、どう変わっていくのか楽しみ!不忍池の野草の変化を見ていきたい。小さな虫達、昆虫達が生きられなくなるので、雑草だからといって刈らないでもらいたいと願う。渡り鳥のための保護区「鳥獣保護区」と同じに虫達の為に野草の保護区にしてもらえないものか?小さな虫達がふえると野草は一層増え、虫めあての鳥達もふえるのではないかと思う。たぶん本当はこの全部を含めて守ることを保護ということなのだと思う。

・今日、色々教えてもらったSさんから野草の本、図鑑、花や樹の本を預かった。次回から持参するので、利用下さるとありがたい。Sさん、感謝!。

しのばず自然観察会創立50周年記念誌の作成 途中報告とお願い

しのばず自然観察会は2025年に創立50周年を迎えます。その記念誌として、「私たちの上野公園—しのばず自然観察会50年史」(仮称)の執筆・編集を続けています。内容は、2016年から2020年にかけて19回にわたって行った「上野しのばず学習会」の内容や資料・文献などを整理・加筆して、フィールドである上野公園の歴史としのばず自然観察会50年の歩みを、住民、市民の視点から記録に残そうというものです。

途中報告:先にお知らせした全体の構成は変わりませんが、執筆予定者4名のうち1名が体調を崩され、1名が逝去されたため、原稿が途中までとなりました。予定原稿の一部を簡略化して編集者(小川潔)が代筆するほか、未編集のままとなった原稿については他の原稿とは別建てにして「寄稿」という形で掲載してはどうかと検討中です。

お願い:最終章に、皆さまの上野公園、あるいはしのばず自然観察会についての体験や思いを載せたいと思います。短くても結構ですから、原稿、あるいは絵とか写真などを事務局までお寄せください。締め切りは2023年末、原稿は500文字以内を目途にお願いします(長い分には相談させてください)。

7月の定例活動(不忍池定点観察)は7月~~16~~9日(日)の予定です。

谷中霊園のニリンソウ保全に向けて

上野公園と幹線道路（言問通り）を隔てて向かい合う位置にある都立谷中霊園には、武蔵野台地東端のニリンソウの小群落が 2 つあります。その内の一つ、芋坂脇の群落が、コバンソウなどに覆われて生育が危ぶまれる状況になりました。そこでしのばず自然観察会の小川潔が 5 月 26 日に谷中霊園管理所をたずね、来年春に向けて除草などのケアを求める申し入れを行いました。これには、赤塚公園ニリンソウを守る会の活動を参考にさせていただきました。



2015.04.12



全面ニリンソウの花 2016.04.15



コバンソウが全面を覆う 2023.04.17

当該地は JR 線路に面した崖地で、2007 年に地滑り防止のための擁壁設置と斜面のコンクリート化、杭打ち工事が行われました。その際、しのばず自然観察会の小川潔と谷根千工房の山崎範子さんが東京都東部公園緑地事務所と話し合い、ニリンソウ生育地だけ地面を残し、工事中は栈橋を掛けて重機や人が地面を踏まないように工夫して、ニリンソウを守りました。

また、これに先立つ 2005 年 4 月には、しのばず自然観察会は東京都の「谷中霊園再生」計画中間報告に対し、パブリックコメントを提出しました。その内容は、①谷中霊園は、上野公園と連続し武蔵野台地の東端を形成する自然史的意義を持つので、そこに存在する植生とともに、物理的改変を極力避けることが必要であること、②大径木の保全だけでなく、野生のスミレ類をはじめ草本相も都市にあっては貴重なものに富み、これらに依存する昆虫や小動物の棲息地でもある。これは、都心に残る、いわば江戸・東京の歴史的文化遺産であり自然史の標本的価値があること、③生態系と生物多様性の保全を実現するため、12 か月以上にわたる徹底した調査をした上で、適切な保全策を講じる必要があることなどを訴えました（詳細はしのばず自然観察会より 2005-3 2005.04.12 所収）。さらに 2006 年 4 月には、都庁・建設局公園緑地部の林計画課長と面談し、谷中霊園のニリンソウ保全を申し入れました。



2015.04.19

ニリンソウは 3～4 月だけ葉を展開する春植物です。